Medical Journalists Association of Japan

NPO日本医学ジャーナリスト協会
第8回（2019年度）日本医学ジャーナリスト協会賞
映像部門　優秀賞

プロフェッショナル 仕事の流儀

医療事故をなくせ、信念の歩み

～医師・長尾能雅～

2019年11月18日　日本記者クラブ（内幸町）

ディレクター　大野兼司
NHK　制作局第2制作ユニット

自己紹介

1988年　NHKにディレクターとして入局⇒今年で31年

これまで制作してきた番組（おもに歴史・福祉）

2008年　ETV特集「加藤周一 1968年を語る～“言葉と戦車”再び～」

2008年　ETV特集「悲劇の島チェジュ　4・3事件」
2010年　Nスペ「韓国併合100年」

2011年　ETV特集「二人のチャレンジド～浅野史郎と村木厚子」

2015年～　クロ現＋　偽造薬、ベトナム人留学生、息子介護など

2018年～　プロフェッショナル班へ

【ドキュメンタリーを制作する視点】

桜井均「テレビは戦争をどう描いてきたか」

なぜ戦争が起こったのか。またなぜそれを防ぐことができなかったのか。 戦争に関するドキュメンタリーを制作する者の基本的な問い。・・・

「過ぎ去ろうとしない過去」 清算しないままだと亡霊のようによみがえってくる。放置しておいていつのまにか帳消しになっていく債務はない。・・・

迫り来る過去の声は、いかにすれば**モノローグ**から**ダイアローグ**へ、さらに**ポリローグ**へ開かれていくか？

医療事故をなくせ、信念の歩み

名古屋大学病院　医療の質・安全管理部　長尾能雅

○企画のきっかけ①

“失敗”の時ほどプロの真価が問われるのでは？

チーム連携で患者を救った事例に興味

○企画のきっかけ②

医療事故調査制度の発足から3年。

しかし“報告”が上がらない。文化の問題？

⇒「医療安全をちゃんとやっている病院をみたい。

名大病院のように・・・」（永井裕之さん）

長尾教授、名大病院の“流儀”

- 逃げない 隠さない ごまかさない
- 医療安全＝ ”免疫”
- 医療安全は、“治療”だ

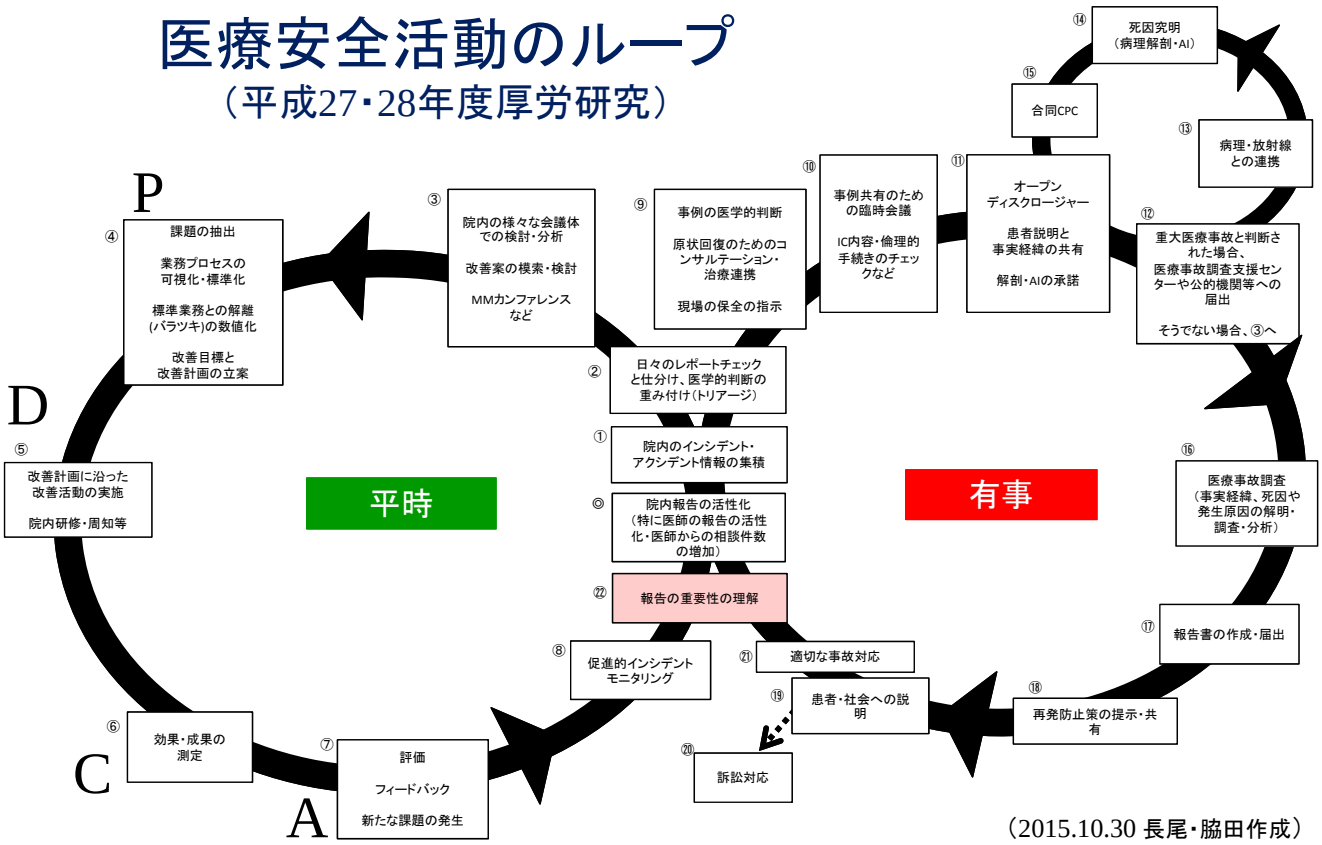
★番組は、NHKオンデマンドでご覧になれます。
https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2019095921SA000/

免疫というのは、リスクをできるだけ
軽減したり、次に同じ事が起きたときに
も適切に対応できるようにしたり、
まだ私たちが知り得ていない未知の問題
が発生したときにも、その機能自体が
有効に働き患者さんの被害を最小にする

よく免疫が枯渇する時が生命が終わる時
だっていう風に言われるんですけど
同じ事が病院（という組織）にも言えて
医療安全活動なしでは、こういった機能
を維持することはできないんじゃないか

「有害事象の根本的原因の多くは、
専門的知識・技術よりも、
ノンテクニカルなものである」

医療安全活動のループ
（平成27･28年度厚労研究）



（2015.10.30 長尾・脇田作成）

反響

- （看護師）長尾先生が主役ですが、チームで作り上げていくプロセスが大事なことがわかりました。
- （医師）このカンファレンスの場にカメラが入るのってスゲーわ
- （医療安全担当者）心折れる時期であったために涙が止まりませんでした。安全を考えられない医療者は治療をする資格がない（誇張しすぎてますか？）の言葉の重さを実感します。
- （医療担当記者）“報告”を人事評価と切り離している、ということは大事ですね。
- （視聴者）医療事故をなくすために頑張る医師の話。畑違いだけどシステム開発の現場でも 同様の試みをしてるので共感を覚えてしまった。。。
- （遺族）医療安全文化醸成の実践的挑戦として、現場の方々や再発防止を願う医療事故被害者に大きな励みになったと思います。
- etc…

村木厚子さんからのメッセージ

- 私が最近気に入っている言葉に
「失敗を責める文化から、
失敗から学ぶ文化へ」というのがあります。
まさに、そういう実践ですね。

長尾教授、名大病院の“流儀”

- プロフェッショナルとは・・・

「責任の重さから逃げない。プロとしての弱さとか危うさを自覚して、つらくても真摯にそのことに向き合って、最終的に本当の強さに変えていこうと努力することのできる人たち、それが真のプロフェッショナルだと思う。」

★番組は、NHKオンデマンドでご覧になれます。
https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2019095921SA000/